

自然に恵まれ「人と人との豊かな生活」がそこにある

JAひろしま ふれあい市安芸津店

東広島市安芸津町風早647番地8

ふれあい市は、『農業者の所得増大』『農産物の生産拡大』『地域の活性化』を基本目標とし、地産地消に取り組んでいます。



あなたとわたしの
ふれあい市



10月中旬～
11月上旬の
おすすめ



収穫の秋と言われるように、秋はおいしい食材がたくさんあり、食べる楽しみが大きい季節です。日に日に秋が深まり、過ごしやすい気候となってきました。ふれあい市安芸津店から季節の情報をお届けします。

みかん

10月中旬から
並びます



その他、
レモンや**栗**なども
店頭並びます。ぜひお越しください。

さといも

9月中旬から
並びます



今月のおすすめ

安芸津日和

当JA管内の特産品
じゃぼんを使ったチーズケーキ

テラスやイートインスペースでおだやかな海を眺めながら、コーヒーと安芸津日和でのんびりひとやすみしませんか。

出荷会員募集中

自慢の農産物を出荷してみませんか？
興味のある方は下記の連絡先までお問い合わせください。

0846-46-1166

ふれあい市安芸津店 担当：高本まで



Information お知らせ

JAひろしまのポイントカードは、お持ちですか？

JAひろしまの還元策である「JAポイントシステム」が、9月19日（火）からはじまりました！！

組合員も、組合員以外の方も、JAの各事業のご利用でポイントが貯まります。詳細は、店頭にある「ポイントシステム」のちらしをご確認ください。

●ご注意!! ポイントを貯めるには、申し込みが必要です!!

お問い合わせは、次の各店まで

安芸津支店	0846-45-1243	東広島市安芸津町三津4258-1
安浦支店	0823-84-2040	呉市安浦町内海北2-1-17
安浦店	0823-84-2049	呉市安浦町内海北2-4-3
川尻支店	0823-87-2046	呉市川尻町西1-1-43
川尻店	0823-87-2931	呉市川尻町西1-1-43
安芸津アグリセンター	0846-46-1017	東広島市安芸津町風早647-8
ふれあい市安芸津店	0846-46-1166	東広島市安芸津町風早647-8





水稲 10月

来年の土づくりについて

冬場の土づくりは来年の稲の生育に大きく影響しますので、有機物補給、土壌改良剤の施用を行ない耕起しておきましょう。

- ①有機物(10a当り) 次のいずれかを1t施用しましょう。
 - ・牛ふん堆肥
 - ・豊穰2号
 - ・こだわり健肥
- ②土壌改良剤は水田の状態によって使い分けて施用しましょう。

・病気が多い水田では茎葉を強化し、病害耐性を高める「ケイ酸」を、根腐れが多い水田では根の発根強化に有効とされる「鉄分」を施用してください。

資材の使用例(※10a当り施用量)
ケイカル 200kg(10袋)
ケイ酸主成分。倒伏防止、いもち病・ごま葉枯病予防に。

防除例

【作付け前】

ダイアジノン粒剤5を土壌混和4kg/10a(は種又は定植時・1回)

【作付け後】

ガードベイトAを株元散布3kg/10a(は種〜生育初期・4回以内)

※害虫が食べる誘引殺虫剤です。降雨があると薬剤が溶けだし、効果が落ちはじめますので、再度散布してください。

いづれも登録作物に注意して散布してください。

〈馬鈴しょの生産者のみなさま〉

「ウイルス病」が多発しています。対応薬剤はなく、減産を招くおそろしい病気です。感染を広げる「アブラムシ類」を防除し、収穫後に畑に残った芋(野良芋)が発芽しても感染するので、徹底除去する必要があります。特に種芋は正規販売のものを使い、切断する包丁の殺菌をしましょう。

〈農業の安全使用基準を守り、生産工程管理日誌を提出しましょう!〉

農業に関する法律が厳格化しています。(適用作物・希釈倍数・収穫前・使用回数など)

事故が発生すると、出荷者個人に全商品回収や損害賠償などが課される可能性があります。風評被害により産地にも影響が懸念されます。

生産工程管理日誌は、事故発生時に最初に商品の管理状況を確認する手段となります。ご自身の信用と安全を守るため、生

ミネリッチ 100kg(5袋)
ミネラルGのケイ酸・苦土を高めたもの。生育・耐病強化に。

ミネラルG 200kg(10袋)
ケイ酸・鉄分・石灰・苦土・マンガンとバランス良い改良資材。

土壌園 60kg(3袋)
高濃度でバランス良い改良資材。散布量を減らせる省力タイプ。

石灰窒素 20kg(1袋)
年内に生ワラの上に散布。腐敗と微生物の増加を促進。

アグリ革命 2kg(1袋)
酵素で稲ワラを分解し、うきワラ・ガスわきを減少させる。

水稲 問 安浦店
TEL 0823-84-2049
担当 桑原 伸明

野菜 10月

馬鈴しょ

病害虫防除・管理について

アブラムシの発生はウイルス病を媒介し、後の収穫に大きく影響します。また、急激な低温・長雨があると病気が多発します。早期の連続予防散布を心がけましょう。

病害虫防除例
10月上旬
【アブラムシ】
モメントフロアブル 4,000倍液

産管理を徹底し、記録・提出をお願いします。

野菜 問 営農経済課
TEL 0846-45-3360
担当 久保 勝義

果樹 10月

かんきつ

地温が低くなり施用した肥料を樹体が吸えなくなる前に、早目に肥料を施用しましょう。特に今年豊作・不作を問わず、来年の樹勢回復のためにしっかりと肥料を施用しましょう。

仕上げ摘果と樹上選果の徹底

極早生は、小玉果・軸太腰高で糖度の低い果実(裾なり・内なり)・傷果・日焼け果・小玉果・サビダニ被害果等の摘果により、収穫時には全てが成品となるよう、徹底的に摘果しましょう。

早生温州についても収穫1カ月前には、仕上げ摘果を実施し、続いて樹上選果を行ないましょう。

普通温州は本格的な仕上げ摘果に入り、小玉果・軸太腰高で糖度の低い果実(裾なり・内なり)等を徹底して摘果しましょう。

枝つり・枝支えの徹底
大津四号・青島温州は裾成りの中玉果に光が当るよう、重なり枝を吊り上げ、紅の濃い成品に仕上げましょう。

(収穫7日前まで、使用回数3回以内)
【疫病防除】
プロポーズ顆粒水和剤 1,000倍液
(収穫7日前まで、使用回数3回以内)
前記2剤を混用散布。
10月下旬
【アブラムシ】
ウララDF 3,000倍液
(収穫7日前まで、使用回数2回以内)
【疫病】
フォリオゴールド 1,000倍液
(収穫7日前まで、使用回数3回以内)
前記2剤を混用散布。

※アオムシ・ヨトウムシの防除は定期的に観察を行ない、早めの防除をお願いします。

防除例(追加防除)
【アオムシ・ヨトウムシ】
ベネビアOD 4,000倍液
(収穫7日前まで、使用回数3回以内)
またはデアナSC 3,000倍液
(収穫前日まで、使用回数2回以内)

【ジャガイモガ】
ランネット45DF 1,000倍液
(収穫7日前まで、使用回数5回以内)

・土寄せ：土寄せは馬鈴しょの緑化を防ぎ、肥大を促進するため、着蕾期終わりまでには必ず行ないましょう。
・ウイルス病、葉巻病の発生が確認された場合は、伝染を防ぐため、発生株を抜き、ほ場外へ出してください。

浮皮防止対策(樹勢の良い樹)

着色開始期にフィガロン乳剤3,000倍液(収穫14日前まで)とカルピタP770倍液を混用散布しましょう。

※樹勢維持のため、フィガロン乳剤の年間使用回数は、2回まで!!

収穫前の防除対策

アザミウマ類の防除
着色の早い品種・園地では、アザミウマ類による吸汁被害が出やすいため、防除を徹底しましょう。果実と果実、果実と枝葉の重なっている場所では被害が出やすく、リング状に白変し、その後褐変したりします。発生が多い場合は、コテツフロアブル(劇)6,000倍液(収穫前日まで、使用回数2回以内)を散布しましょう。

腐敗防止剤の散布

【極早生】
ペフトップジンフロアブル(劇)
1,500倍液
(収穫7日前まで、使用回数3回以内)
または、ペフラン液剤25(劇)
2,000倍液
(収穫前日まで、使用回数2回以内)

【早生温州・いしじ・普通温州】
ベンレート水和剤 4,000倍液
(収穫前日まで、使用回数4回以内)
ペフラン液剤25(劇) 2,000倍液
(収穫前日まで、使用回数2回以内)
または、
ペフトップジンフロアブル(劇)
1,500倍液
(収穫7日前まで、使用回数3回以内)

たまねぎ

作付け・病害虫防除・管理について
※苗の植え付け時期は早生で11月上旬、晩生は11月中旬頃です。
植え遅れしないように注意しましょう。

植付け後は苗の立枯病と、初期の病害虫・べと病に注意しましょう。

病害虫防除例

【苗立枯病】
オーソサイド水和剤 600倍液
(収穫前日まで、使用回数5回以内)

【べと病】
ダコニール 1,000倍液
(収穫7日前まで、使用回数6回以内)

【アザミウマ類】
スミチオン乳剤 1,000倍液
(収穫21日前まで、使用回数2回以内)

その他の野菜

秋の深まりとともに、種のまき時が終わる品種があります。まき遅れは生育不良につながり、生産量が減少します。種袋などの曆を確認し注意しましょう。温度が下がるにつれて害虫は減少していきますが、予防を心がけましょう。

ネキリムシ(カブラヤガ・タマヤナガ等)に注意!

ガの幼虫で、地中に潜み、夜間に植え付け直後の野菜苗や発芽した芽を食害し、切り倒す特徴があります。

作付け前に薬剤の予防散布を行ない、作付け後も観察し対策をしましょう。

秋肥の施用

秋肥は来春の発芽に大きく影響します。施用量が少なならないよう、確実に施用しましょう。

極早生……10月上旬〜下旬
早生温州……10月下旬
普通温州……11月上旬に基準量を施肥しましょう。

※詳しくは、柑橘栽培管理指針の秋肥の項をご参照ください。

びわ

園地の土壌管理(中耕・除草)と併せて、秋肥・花肥を今月中に施用しましょう。

秋肥：「ひるしまフルーツ元気866」(6袋/10a)
花肥：「プロウ」(2袋/10a)

果樹 11月

温州みかん

腐敗果を出さないためにも、腐敗防止対策を必ず行ないましょう。収穫前には、次の対策を実施しましょう。

腐敗防止剤を必ず散布しましょう

【散布時期】
早生温州……10月中旬〜10月下旬
普通温州……11月中旬〜11月下旬
【散布薬剤】
ペフラン液剤25(劇) 2,000倍液
(収穫前日まで)

ベンレート水和剤 4,000倍液
(収穫前日まで)

の混用散布または、
ペフトップジンフロアブル(劇)
1,500倍液
(収穫7日前まで)

の散布を実施しましょう。

その際、浮皮軽減・着色促進のため、カルピタP770倍液を混用散布しましょう。

また、普通温州は樹勢回復のため、尿素200倍液を混用散布しましょう。

さらに、腐敗防止剤と収穫前ミカンハダニ防除を同時に行なう場合は、オマイト水和剤750倍液を散布しましょう。ただし、
温州ミカン：収穫7日前まで
中晩柑類……収穫14日前まで

使用回数は2回までとなっていますので、注意して散布しましょう。

なお、防除の際に畑に落ちている果実にも薬剤散布することで、園全体の腐敗菌密度を下げることができます。

秋肥を施用する

まだ秋肥を施用されていない園地では、遅くとも上旬までに施用しましょう。特に隔年結果がひどく今年全く成っていない園地ほど、隔年結果は正のためにしっかりと基準量を施用しましょう。

びわ

開花開始時期となり、令和6年夏の収穫を目指し、管理作業を徹底しましょう。

病虫害防除

年間の病虫害発生密度を少なくするために石灰硫黄合剤を散布しましょう。また芯ぐされ(果実腐敗病)の発生防止のためにも開花期の殺菌剤散布を必ず実施しましょう。

散布時期

11月中旬～11月下旬

散布薬剤

石灰硫黄合剤100倍液を幹まで掛かるように散布しましょう。

摘房・摘蕾の実施

連年安定生産を目指し、枝数6割程度で充実の良い果房を残します。(目安：2枝につき1花房残す程度)また副梢は小玉で生育が遅れやすいため、中心枝を残すようにしましょう。

10月の野菜作付情報

安芸津アグリセンターでは、直売所などJA出荷者の支援として、128穴セルトレイでの野菜苗の生産・供給を行なっています。数に限りがありますので、お早目にお問い合わせ頂ぎぜひご利用ください。



128穴セルトレイ (商品例) キャベツ苗

今月の供給品目

品目名	品種名	販売予定	収穫予定
キャベツ	春波・春空など	10月下旬～	2月中旬～
レタス類	サニーレタス・ロメインレタスなど	10月下旬～	1月下旬～

※在庫・価格等詳細については随時お問い合わせください。
※特注品についても相談の上、対応致します。

栽培品目(例)

分類	品目例
葉菜類	ホウレンソウ、コマツナ、チンゲンサイ、サラダナ、ミズナ、シュンギク、ナバナ
根菜類	ダイコン、小カブ、ニンジン
果菜類	ソラマメ、サヤエンドウ

※作型については、種子袋など品目毎の資料を参照ください。

10月の栽培のヒント

野菜の耐寒性を知っておこう

日に日に温度が下がる時期になります。適切な対策で収穫アップをめざしましょう。

耐寒性	野菜名	防寒対策
とくに強い	タマネギ、ネギ、ラッキョウ、ナバナ、タカナ	かなりの低温に耐えられるので、一般地では不要(風よけ程度でよい)
強い	サヤエンドウ、ソラマメ、ニンジン、ホウレンソウ、コマツナ、ブロッコリー	風よけ、笹立て、敷きワラ、土寄せなどの簡単な防寒対策で十分
やや弱い	ダイコン、カブ、ハクサイ、キャベツ、カリフラワー	冬に収穫する場合は、べた掛けなどで保温
弱い	レタス、セロリ、シュンギク、ミズナ、チンゲンサイ	冬に栽培・収穫する場合は、ハウス、トンネルなどで保温

出典：2022年 家の光4月号
「なぜ？」がわかると腕が上がる！家庭菜園の教科書

いちご

収穫が終わり、樹体では落葉が始まります。残果・落葉は病虫害の感染源となるため、できるだけ園外に持ち出して処分しましょう。

果樹問 安芸津アグリセンター
TEL 0846-4510488
担当 広果連駐在技術員 須野田 祐也

なお、寒害を受けやすい園地では、副梢を2割～3割程度多めに残ししましょう。

摘蕾は摘房と同時進行で実施しますが、残した花房の下3段の花こうを残して上部を除き、その中から大きくて充実しているもの2段を残し、1段は除くようにしましょう。

農薬使用の注意点

- ・使用者自身の安全のため、農薬の製品ラベルに従った保護具を着用しましょう。
- ・環境への安全のため、周辺住民や農家に配慮し掲示版などで農薬の使用を事前に伝え、農薬が飛散しつかからないように注意しましょう。
- ・作物の残留農薬が問題となっていないが、農薬の製品ラベルに従い、決められた作物種、使用量、使用時期、使用回数などを確実に守れば基準値を超えることはありません。ただし、農薬ごとに作物名が似ているなど、間違いやすいものがありますので、慎重に注意して使用してください。